

## 遠い先を見据えつつ、 目の前の子供たちに目を向けて

教頭 佐藤 宏充


皆さんは「2045年問題」をご存知ですか？

2045年というと、遠い先のことのようにも感じますが、それほど遠い先ではなく23年後の話です。その頃、私は70歳手前ですが、当校に通っている子供たちは、30代～40代で、まだまだ元気な働き盛りの年代です。

「2045年問題」とは、AIが自ら人間を超えた賢い知能をもつ時が到来し、そのときに人間が受ける影響や問題のことを指しています。これを聞き、私は、私達の社会がAIに乗っ取られてしまうのではないかという不安な気持ちになりました。

10～20年後には、日本の労働人口のおよそ49%が就いている職業は、AIで代替可能という報告もあるようです。AIの進化が原因で失われる仕事も出てくることは否めません。すでに、レジの自動化や一部の調理器具のロボット化などは提供されているという現実もあります。しかし、私が子供のころにはあまり耳にしなかったIT企業と言われる会社が今では当たり前にあるように、時代の変化と技術の進歩により仕事の変容するという考え方が適切なのだと思います。失われる仕事もあれば、失われない仕事や新しく誕生する仕事があり、AIがどれだけ進化しても、人間にしかできないことは存在します。

さて、そのようなやや遠い先を見据えつつ、今に目を向けてみます。目の前にいる子供たちに、どんな力を付けたらよいのでしょうか。目の前にいる子供たちには、どんな大人になってほしいのでしょうか。今年度、当校では、ヒト・コト・モノとの「かかわり」をキーワードに、全職員が一丸となり授業実践に取り組んでいます。あらゆる領域でロボット化される時代だからこそ、AIがどれだけ進化しても、「人と人のかかわり」「人と人のコミュニケーション」は、今後より一層大切なものとして、生活や仕事の中で扱われるのかも知れません。今、目の前にいる子供たちにとって、どんな学習や活動が必要なのか、そして、それらを身に付けるために必要な指導・支援について2学期以降も追究していきます。2学期も引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



2045年問題とは？  
人工知能が人類を超える日

# 発達障害通級指導教室について

## 当校の発達障害通級指導教室について

当校の通級指導教室は、新潟市内小中学校の通常の学級に在籍する児童生徒を対象にしています。  
読み書き・計算等への困難さ、他者とのかかわりに苦手さの改善・克服を目指す教室です。  
毎年『特別支援教育研究会』を開催し、全国に授業を公開しています。  
新潟大学の附属校として、教育の理論の研究、大学生・大学院生等の実習、講義等も行っています。

## 当教室について

### ● 遊び × 実際的なかかわり ●

かかわりや集団の中での行動の仕方を学ぶことができるように、また、人とかかわる自信や意欲が高まるように、実際的なかかわりを引き出す活動に取り組みます。(Together Room)



正しいかかわりや手立てを身に付けるための活動設定



### ● 対話 × 自分の学び方 ●

様々な学び方の中から、自分に合った学び方を見つけ、在籍校の中で自分の力を発揮し、意欲的に学び続けることができるように、子供と対話し、学び方を探りながら取り組みます。(Bear Room)



普段の学習道具に加え、ICT 機器を活用した学び方の追求

## 教室の経営方針について

### 前向きな「思い」の育成

☞ 自尊感情を高め、自ら進んで取り組む意欲や態度を育てながら指導や支援を行います。



### 在籍校・家庭との連携

\*年2回程度、支援会議を開催します。

☞ 本人の思いや在籍校や家庭における教育的なニーズを受け止め、保護者や在籍校担任や特別支援教育コーディネーターと連携し、共通理解のもと指導を行います。

### 計画的な指導の実施

☞ 保護者・在籍校・通級担当者間で個別の指導計画を作成し、計画的に支援を見直して改善を図りながら指導に当たります。

## 当教室の募集について

当教室の募集は、年1回、1月頃に行っております。募集要項については、当校のホームページよりご覧いただけます。  
市内の小中学校には、新潟市教育委員会を通して配布いただいています。

☞当校ホームページ

☞昨年度の通級の実践

